勇猛と懈怠

柳　幹康

「勇猛の衆生の為には成仏一念に有り、懈怠の衆生の為には涅槃三祇に渉る」――これは白隠が著作においてしばしば引く言葉です。今回はこの「勇猛」と「懈怠」について見てまいります。（なお白隠はこの語を(1)釈尊が弟子の阿難に説いたもの、(2)『起信論』の言葉、(3)『沢水法語』の言葉として引きますが、実際には『宗鏡録』による『起信論』の取意です。）

「勇猛」は熱心に努力する様を表す語です。白隠によれば「何としてでも己が本性を自ら看取しよう」という不退転の決意が勇猛の志であり（『兎専使稿』）、敵の大軍に囲まれようとも怯むことなく突撃・突破する勇士のように、妄念や睡魔、是非憎愛など禅定（精神集中状態）を乱す一切合切を討ち破って始めて見性（己が本性たる仏心を見てとること）に至れるのだと言います（『遠羅天釜』巻上）。かかる勇猛こそが要である点について白隠は次のように述べています。

ここに一挙両得の道術がある。これによって養生と見性がともに達成される。努力して秘薬を練れ。この秘薬とは本より具わる本性のことだ。その秘訣は他でもない、ただ勇猛の一念心にあるのだ。

（『勧発菩提心偈 附たり御垣守』）

これに対し「懈怠」とは努力をせず怠けている状態を指します。怠惰な人々について白隠は様々に述べていますが、ここでは三例のみご紹介いたします。

第一が酔生夢死の徒です。その自堕落な様子を白隠は以下のように活写しています。

懈怠の衆生とは誰のことを言うのか。お互い思いがけず得難き人としての生を受け、逢い難き仏法に逢いながら、あたかも夢や幻（を見るか）のように（ぼんやりとし）、千年も百年も生きられるような心持ちで、食べたいように食べ、飲みたいように飲み、寝たいように寝、遊びたいように遊んでいる。芥子粒ほどの菩提心も持ち合わせず、少しばかりのことで大いに気をもみ腹を立て、頭の天辺から足の裏まで全身まるごと三毒五欲（貪・瞋・癡という根本的な煩悩と、五感に関する欲望）、五臓六腑を貫いてみなことごとく貪欲と瞋恚。毎日朝から晩にいたるまで（殺生・偸盗・邪婬という）身体で行なう三種の悪業、（妄語・綺語・悪口・両舌という）口で行なう四種の悪業、（および貪欲・瞋恚・邪見という心に関する三種の悪業の）計十種を積み重ね、それを担いであの世（で地獄）に入ることになる。

（『仮名葬 附たり新談議』）

第二が居眠り坐禅をしている人々です。釈尊が睡魔に襲われた弟子の阿那律を叱って「田螺や蚌蛤のようにいつまでも眠っているようで

は、仏が世に出る（得難き機会）に遇うことができない」と言った話を引き、悟りを求めずただぼんやりと坐禅して眠気に襲われている人々を懈怠の衆生として批判しています（『壁生草』巻下）。

第三が一見熱心に坐禅しているように見える以下のような人々です。

時々思い出しては二炷三炷（線香二三本分）坐禅し、あるいは規則を定めて毎晩五炷六炷（線香五六本分）坐禅する。このような手合いはみな懈怠の衆生である。傍から見ればいかにも殊勝で貴いように見えるし、本人もまた懈怠も退屈もせず立派にしていると思ってはいるが、いかせん死に切ることができていない。このような調子ではたとえ永遠に近い時間を費やすとも、見性はおろか自分を救うことすらできはしない。

（『庵原平四郎物語［某居士に与ふ］』）

つまるところ白隠にとって、今この一念に全身全霊をかける者のみが勇猛な衆生であり、それ以外はみな懈怠の衆生なのでした。「勇猛の衆生の為にはこの一念に成仏があると言い、懈怠の衆生の為には涅槃（煩悩が止滅した悟りの境界）に三祇（永遠にも近い時間）がかかると言う」――この言葉により白隠は、徒に時を過ごすのではなく、この一瞬一瞬に意を注ぐよう求めているのです。

柳 幹康（やなぎ みきやす）
一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。東京大学東洋文化研究所准教授・花園大学国際禅学研究所客員研究員（副所長）。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究――一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、
各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。
＊〆切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。
お待ちしております。

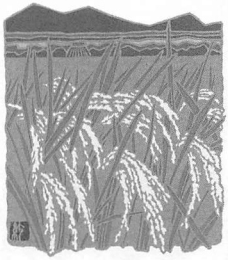
送り先
〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園　係

＊住所、氏名を必ずお書きください。
＊俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)
＊なお投稿はお返しいたしません。

花園 hanazono
「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花　園】第71巻 第10号(通巻第842号)
令和3年10月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
【発行人】野口善敬
【編集人】石田信行
【印刷人】喜田眞司
【発行所】京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400
電話／075-463-3121

表紙の絵　「稲穂」



頭垂れ、さわさわと笑い合う。
絵・正親 里紗(おおぎ りさ)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】
http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002

＊乱丁、落丁本はおとりかえいたします。